

## 名峰景観ツーリズム・シンポジウム実行委員会

所在地 鳥取県西伯郡大山町赤松 2459-364(グラウンドワーク大山蒜山)



（アドバイザー派遣申請の背景）

### 魅力的なエコツアーの商品企画を進めるために

中国地方の最高峰である大山は、伯耆富士、出雲富士と呼ばれる美しい火山峰で、中国地方で唯一、深田久弥の「日本百名山」の一つに選ばれている西日本を代表する名峰である。大山を中心とした鳥取県西部地域とその隣接地域では、数年前より豊かな自然環境を活かしたエコツーリズム事業を推進しているが、未だ魅力的なエコツアー企画や商品が完成しておらず、事業が経営軌道に乗っていない状況である。

大山を含む鳥取県西部では 2013 年秋にエコツーリズム国際大会の開催が決まっており、エコツーリズムの推進とともに、魅力的なエコツアーの商品企画を進めるために、富士山や羊蹄山、岩手山、鳥海山、浅間山などの名峰地域で実践的にエコツアーを展開する実践者をアドバイザーとして派遣していただきたいと考えている。

エコツーリズムに取り組む目的	
従来の観光から脱して、新しい地域の魅力づくりを行うため	○
「自然とのふれあい」を志向する旅行者のニーズに対応するため	○
地域の活性化に貢献するため	○
地域資源の保全に対して「来訪者」の意識を高めるため	○
地域資源の保全に対して「地元住民」の意識を高めるため	○
地域の将来にわたって「自然環境や文化の保全」が特に重要な点だと考えているため	○
現在悪化しつつある地域の自然環境や文化の保全に役立てるため	○
(その他)	
日本の美しい自然と風景の保全再生を進めるため、地球環境時代の職業・ビジネスを育てるため	

エコツーリズムの対象となる自然観光資源	
動植物	○
動植物の生息地・生育地	○
地形・地質	○
自然環境と密接な関連を有する風俗習慣、その他の伝統的な生活文化に係る観光資源	○
これから地域資源の洗い出しをするため、地域資源の把握ができていない	
(主な自然観光資源) 大山、蒜山など名峰の眺望・景観、火山地形、ブナ林・ミズナラ林、湿原・草原、里山雑木林などの植生、オオサンショウウオなどの天然記念物、自然生態系、牧場や山里などの里山・農村景観、大山寺・大神山神社、大山道、宿坊など自然文化遺産、神話・伝説など大自然を背景とした物語り	

現在取り組んでいる・取り組もうとしているエコツアーの種類	取組中	検討中
原生的な自然におけるエコツアー	○	
地域に特有な野生生物とのふれあい	○	
自然の営みにふれる観察会への参加	○	
地球科学的な視点から自然や暮らしとの関わりを学ぶ活動	○	
環境教育を主目的とした活動	○	
農林業などの体験を通じて自然への理解を深める活動		○
自然や文化に関する解説を受けながら地域を巡る活動	○	
地域の生活や文化を体験する活動	○	
環境保全のための貢献活動	○	
自然の中でゆったりとした時を過ごしながら自然の恵みを体感する活動	○	

(現在取り組んでいること)

名峰の眺望・ビューポイントを巡る名峰景観ツアー  
名峰山麓の自然文化遺産と山里の生活を訪ねる田舎暮らしツアー  
大山道(古道)を歩いて名峰の自然と景観を楽しむ山里トトレッキングツアー

(取組を検討していること)

## アドバイザー派遣の概要

---

### ●日時

平成 24 年 2 月 20 日（月）～21 日（火）

### ●場所

鳥取県米子市（鳥取県西部総合事務所など）、視察は鳥取県大山周辺

### ●エコツアーリズム推進アドバイザー

NPO 法人富士山エコネット 代表理事 三木廣 氏

NPO 法人浅間山麓国際自然学校 事務局長 橋詰元良 氏

### ●参加者

実行委員会関係者、および、エコツアーリズム推進団体、エコツアー実施団体関係者、環境保全型観光・自然体験型環境学習・名峰の環境に興味のある一般人（50 名程度）

グラウンドワーク大山蒜山、蒜山ガイドクラブ、NPO 法人大山日野川自然の会、晴れの国野生生物研究会、真庭自然を觀察する会、フィールドアスレチック森の国、ハローリーリスト、(株)環境アセスメントセンター、(株)チロル観光、大山自然歴史館、大山観光局、大山中海観光推進機構、日野郡いきいきツアーリズム協議会、奥大山古道保存協議会、NPO 法人養生の里、真庭遺産研究会、岡山オオサンショウウオの会、大山青年の家、大山寺の宿坊など宿泊施設、皆生温泉の温泉旅館の関係者など

### ●視察およびアドバイスのスケジュール・方法

三木氏は昨年 5 月、11 月に大山を視察、橋詰氏は昨年 11 月に大山を視察

#### （1 日目）

- ・ 実行委員会の戦略会議にアドバイザーとして出席

#### （2 日目）

- ・ 名峰景観ツアーリズム意見交流会にアドバイザーとして出席
- ・ 実行委員会の役員会にアドバイザーとして出席
- ・ エコツアーリズム講演会に講師出演

《テーマ：名峰大山の自然と景観を活かしたエコツアーリズム事業の展開を目指して》

(アドバイザー派遣を実施して参考になったこと、感想)

## アドバイザー派遣の効果

### ●参加者や関係者に与えた効果

大山地域においては、これまでの研修会や講演会、シンポジウムなどで「エコツーリズム」という概念は、定着しつつあり、地域の活性化や資源の掘り起し、ふるさとの再発見につながるという期待感がありました。

その一方で、これまで紹介されていた事例は、屋久島であったり、知床であったり、小笠原であったり、大山地域のような街や農村域に近い環境をフィールドとしてものでなく、人里離れた自然域を訪ねるガイドツアーであったことから、あまり活動の参考になっていませんでした。

また、ガイドツアーでは、少数のガイド団体だけに儲けが発生し、地域の活性化はかれないことはもちろん、資源である自然が観光客によって踏みにじられるというマイナス部分も見えており、エコツーリズムは難しいという絶望感もでていました。

そういう中、今回、大山と共通の環境をフィールドで活動する実践家をアドバイザーとして派遣され、実践事例をもってエコツーリズム事業の説明や助言を受けたことによって、大山地域で展開すべきエコツーリズムのイメージが具体的に見えるようになり、今後いっそうエコツーリズムに取り組もうという意欲が高まりました。

### ●今後の期待される効果

地域的な差異はあるものの、同じく名峰を背景およびランドマーク、地域のシンボルにもっていることから、情報交流などでノウハウを共有することが可能になりました。

とくに浅間山麓で展開しているロングトレイル事業については、大山地域で取り組んでいる大山古道の復元・利用にも大いに参考になり、今後、大山地域および富士山地域でも同様のロングトレイル事業に取り組むことになりました。

また、このロングトレイル事業は、全国の名峰地域とのネットワーク構築を進めにあたり、有効な手段になるということで意見が一致したことから、浅間地域、大山地域、富士山地域など名峰地域を中心に日本の自然と風景を楽しむ「歩く観光」を取り入れた体験型エコツーリズム・プログラムを開発していこうという話になりました。

農山村地帯が広がる大山地域においては、広く静かで昔ながらの田舎の風景が残されており、名峰を背景に里山の環境をゆっくりと歩くロングトレイルは農村型エコツーリズムを進める上に大きな魅力になると期待されます。



(アドバイザー派遣を実施して参考になったこと、感想)

## アドバイザー派遣を実施して（地域からの声）

---

### ●参考となった事項

エージェント（旅行業者）との関係、歩く観光に人気が高まっていること、ツアー・プログラムの開発、ガイドの管理、体験型観光の需要の高まりなどについて、先進的かつ実践的な活動を通じての話には説得力があり、これから大山地域において本格的にエコツーリズム事業を展開する上で大いに参考になりました。

とりわけ、エコツーリズムを展開していく上では、優秀なガイドの存在が不可欠といわれておりましたが、富士山エコネット代表の三木氏の話からは、ガイドも大切であるが、ガイドの個人的技能や知識に頼るのでなく、しっかりとしたガイド・プログラムをつくって、ガイド組織全体でチームワークをもって事業に取り組むことが重要という話は、たいへん参考になり、共感もてました。

### ●その他感想

今回、講師に富士山や浅間山の山麓でエコツーリズムを実践的に展開する団体の代表を招いて現地指導や講演会をおこないましたが、当初、これらの地域は富士五湖や軽井沢などの有名観光地を有し、首都圏にも近いことから、集客面において大山地域より有利な状況にあると考えていました。しかし、実際に助言を受け、話を聞く中で、大都市に近い分、開発も進み、自然生態系はもちろん、昔懐かしい景観や歴史的資源も失われていることがわかり、大山地域は資源面において、富士山や浅間山の山麓よりもエコツーリズム事業を展開する上において有利ということもわかりました。

後は、この残された自然や景観、文化資源を上手く活用したエコツーリズム・プログラムをどのように開発し、それを運営する人材育成や運営組織づくりをどう進めていくかであり、今後も富士山や浅間山などの名峰地域と情報交流を進めながら取り組んでいこうと考えています。

(エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス)

## 三木アドバイザー・橋詰アドバイザーからの地域へのアドバイス

NPO 法人 富士山エコネット

代表理事 三木 廣

当団体は環境に配慮したエコツアーを開始してから昨年で 12 年目、NPO の認証を受けてから 7 年になる。その間、美しい富士山を後世に引き継ごうという理念のもと小中高生を中心とした団体教育旅行で、毎年約 100 団体以上、平均 1 万 8 千人以上の方々がエコツアーに参加されている。近年はエコツアーと連動しての事前学習や講演会が増え、その数、年間 20 団体に及ぶ。富士山を核とした周辺の自然資源のすばらしさを、現場において体感し理解していただくという



エコツアーの、リピーター、新規も含め教育旅行としての需要は今後ますます高まることが予想される。年間のべ 800 人のインストラクター（登録約 50 名）の人材育成や、ツアー内容のより充実など、学習と実践を同時並行させながら、日々研鑽している。また、私自身も、地元の観光連盟、観光協会、民宿組合の理事であり、自然資源を生かした当団体のエコツアー誘致を、宿泊客の増加など地域全体の観光振興と連動させ、エコツーリズム推進において常時連携している。

このたび、大山蒜山でエコツーリズム事業の展開に際し、具体的提言をとということで、当団体の推進してきた主にエコツアー事業を参考にさせていただければと、お受けした。

環境に配慮しつつ、自然資源を生かしたツアーで地域振興を推進していくというエコツーリズムの基本的理念を軸に据え、当団体の今までの活動が少しでも参考になればと、ツアーにおける最も基本的と思われることを中心に話させていただいた。

大山蒜山は豊かな自然、景観と歴史的にも由緒ある場所に恵まれている。われわれの展開する富士山に比べても、まだまだ開発されていないところも多く、懐かしい里山の風景が随所に見られる。

ツアーを行うに当たり、もっとも大切なのはこの地の特徴を熟知している地元を中心とした方々の熱意である。この地の自然、文化、歴史の素晴らしさを全力で参加者の方々に伝えようという気持ちはおのずと参加者にも伝わり、迫力あるツアーになる。また何種類かのツアーのルート、内容を構成、吟味し基本的マニュアルを作成し、ガイドの方々がそれを共有することである。一団体の参加人数が多くなったときに、基本事項を共有していないと、ガイドごとにばらばらの説明が行われ、お互いの不公平感や質の低下が顕著になってしまう。当団体でもこの点は徹底しており、ガイド個人の自慢げな知識の披瀝にならないようおのおの自覚していただいている。ただ、面白くなくてはツアーの魅力も半減してしまうので、基本以外は個人の特徴を生かした自由なガイドを奨励している。またツアーの話の中では、必ず現場に即した環境の話を取り入れるようにしたい。(当団体では年間平均 10 団体以上のクリーン活動を別に実施しており、現状の理解に努めている。)

昨年 11 月に大山蒜山の一部のツアーに参加させていただいたが、大山蒜山でも自然、文化、歴史を取り入れた何種類ものツアーを実施しており、あとはいかに集客し、それぞれのツアーをより魅力的にしていくかだと思う。集客では当団体でも年間 5-6 回は紹介（一般には営業）で関東、関西を中心に学校や業者をまわっている。いかに内容がよくても多くの人が知らなければ参加が望めない。

限られた時間だったが、一番基本的なことは熱意を持ってお伝えできたと思う。会議、打ち合わせその他でお会いした地域のかたがたの多くが積極的に熱い思いを語っていらしたので、この思いをぜひ実践の場で生かしていただきたい。その過程でお互い情報交換をしながら、多くの方々に自分達の地域のすばらしさを体験していただき、参加者の多くが自然や文化を守ろうという気持ちになっていただく一助になればと思う。

## NPO 法人浅間山麓国際自然学校

代表理事 橋詰 元良

今回、大山地域を中心としたエコツーリズム事業を展開するにあたっての体制づくりや商品づくりの参考になればということで、事例紹介的な講演を実施させていただきました。

私が代表を務める NPO 法人浅間山麓国際自然学校は浅間山を中心にその山麓を活動エリアとしてエコツーリズム、グリーンツーリズムを展開しています。ここ大山地域は大山を中心に浅間山麓と類似した環境にあり、まさに我々が実践していることがそのまま使えるのではないかと

いう印象を受けました。さらにこの地域は一步足を延ばすと日本海に通じているという立地から、もっと面白い視点でエコツーリズムが展開できるのではないかと感じました。

浅間山麓国際自然学校は、群馬県と長野県の両県に接し、県をまたいだ広域エリアとして活動しておりますが、ここ大山地域も鳥取県・島根県・岡山県とかなりの広域エリアで活動できる地域であり、広域性を持つことによって来訪者を飽きさせない、リピート率の高いエコツーリズムの展開が図れる非常に興味深い地域であると感じました。

この大山地域には大山王国や大山ツアーデスクなど現在様々な活動団体が存在するようですが、それらの団体の連携をさらに強化し、新たな団体を引き入れながらその輪を大きくしていくことが重要であり、それには中核を担う地元密着型団体の存在が必要不可欠であります。

今回参加者の皆さんとお話させていただいた中では、みなさん大山の魅力に自信を持っておられて「この自然豊かな大山地域にもっと大勢の人に来ていただきたい！」「こんな素晴らし所はほかにない！」と非常に地元に着愛を持っておられて、地元を誇りを持っておられると感じ、ライフスタイルとして楽しんで活動されていると感じました。各活動団体の方々は全てそうした信念のもと、背伸びをせず活動をしています。同じ信念を持つ者同士、まずその活動団体を同じテーブルにつかせて共通認識のもと、効率よく活動できる体制が必要であり、その中核となる事務局的団体が



必要です。この地域においては決して難しいことではないと思います。既存の活動団体が中核となるよりは、新たにできた団体が、連携をコンセプトにその中核を担うのも一つの考え方であると思います。まま協議会や連絡協議会といった広域対応の団体がありますが、これは主体不在になってしまうので、何年かすると形骸化して機能しなくなってしまう可能性が大です。

この大山地域では、新たに連携をコンセプトとした活動団体を設立した方がいいかもしれません。この地域なら、この地域の方々なら簡単にできると思います。その団体を作る意味でも、またより広域的なエリアを設定する意味でも、今回浅間山麓国際自然学校が連携をもとに始めた事業「浅間ロングトレイル」について参加者の皆さんにお話しさせていただき、またいろいろ考えていただきました。

この浅間ロングトレイルとは浅間山を中心にその周りに国道、県道、林道など既存の道路を活用して約 180km の歩く道（トレイル）を設定し、大勢の来訪者にその地域特有の文化や歴史、自然を感じながら歩いていただくという事業を展開しています。これは少なくともその浅間山周辺のルート上の団体は連携せざるを得ない状況になります。それらの団体をまとめ中核を担っているのが、浅間ロングトレイルの事務局を持っている浅間山麓国際自然学校です。大山地域も大山を中心に自然、文化、歴史を堪能できる素晴らしいトレイルルートが設定できます。ぜひ新たな連携のツールとして「ロングトレイル」構想を大山地域の皆さんで検討していただければ幸いです。

この大山地域には、人・自然・資源が豊富にあります。これをどう使っていくか？どんなツールを使っていくか？今が地域一体となって知恵を出す時期であると思いますので、ぜひいろいろなアイデアの中から日本のニューツーリズムのモデルとなるような地域にしていきたい、またなれる地域だと思っておりますので、今後も頑張ってくださいと思います。微力ながら私もお力になればと考えております。